

図1 畑の準備



図2 種まき

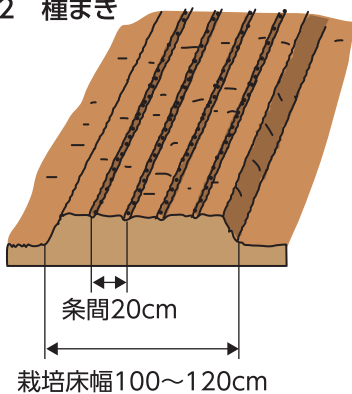
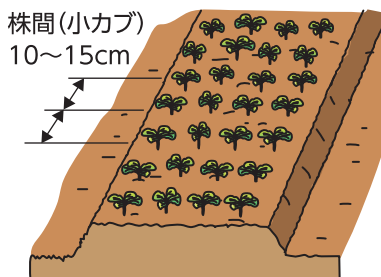


図3 間引き



本文で紹介した種子などは、JAでお取り寄せできます

【品種】  
 大きさ、形、色(白、赤)などさまざまですが、小カブ品種には豊田形で耐病性・耐暑性のある「CRもちばな」、中大カブ取りもできる「スワン」(どちらもタキイ種苗)などがあります。「日野菜」や「飛騨紅カブ」などの地方品種も

カブは暑さと乾燥に弱いものの、寒さに強い作物です。生育適温は15〜20℃と冷涼な気候を好むので、春まき(3〜4月)と秋まき(9〜10月)が一般的です。



園芸研究家 成松次郎

【種まきと間引き】  
 幅110cm前後の栽培床を作り、深さ1cm程度のまき溝を20cm間隔で4条作りまします。ここへ1〜2cm間隔で種をまき、薄く土を掛けましよう(図2)。  
 発芽し、子葉がそろった時点で、密になっている部分を間引きます。その後、小カブは10〜15cm、中大カブは20cm程度の株間になるよう、生育の悪い株を間引いていきます(図3)。

【畑の準備】  
 種まき1〜2週間前に苦土石灰を1㎡あたり100gまき、よく混ぜます。次に、N・P・K比が各10%の化成肥料(固形30号など)150gと堆肥2kgを全面に散布し、よく耕しましょう(図1)。

【種まきと間引き】  
 幅110cm前後の栽培床を作り、深さ1cm程度のまき溝を20cm間隔で4条作りまします。ここへ1〜2cm間隔で種をまき、薄く土を掛けましよう(図2)。  
 発芽し、子葉がそろった時点で、密になっている部分を間引きます。その後、小カブは10〜15cm、中大カブは20cm程度の株間になるよう、生育の悪い株を間引いていきます(図3)。

【収穫】  
 小カブは直径5cm程度、中大カブは10〜15cmが収穫適期です。遅くまで置いておくと肥大が進み、早入りや裂根のものになるため、早く育った株から収穫しましょう。

【土寄せと病害虫防除】  
 間引き後は株元へ土寄せして、株のぐらつきを防ぎます。中大カブでは、最後の間引き後、株元に化成肥料を1㎡あたり30g与え、土寄せしましょう。  
 葉を食害するアオムシ、コナガはゼンターリ顆粒水和剤(BT剤)、アブラムシは馬拉ソン乳剤などで防除します。

また、若い芽を害虫や風雨から守るため、栽培床に不織布をべた掛けする、寒冷紗をトンネル状に掛けるなどの方法もあります。

肥料・農薬のご紹介

畦畔やハウス周りの除草に

ザクサ液剤



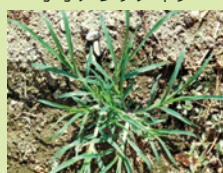
500ml 2,140円(税込)  
 2L 6,820円(税込)  
 (価格は7月13日現在)

ザクサ液剤は、雑草が多くはびこる夏にオススメの除草剤です。

◀3つのオススメポイント

- 幅広い雑草に安定した効果  
スギナ、ツユクサ、オオアレチノギク、オシヒバなど枯れにくい雑草にも効果を発揮します。
- 効果の発現が早い  
散布後2〜4日で効果が現われ始め、7〜14日で枯らします。また、雑草を30〜40日程度抑えることができます。

●環境に左右されない高い効果  
光・温度条件などに関わらず、高い効果を発揮します。



※ご不明な点は各営農センターへお気軽にお問い合わせください